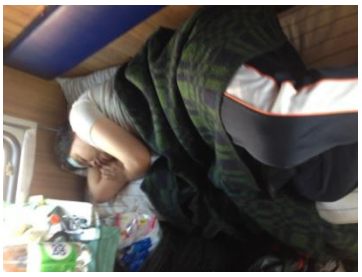
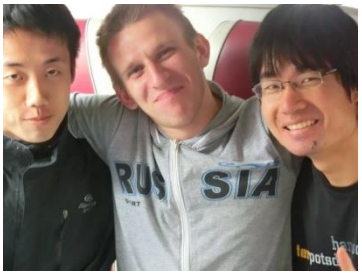
恐ろしあ

ロシアはとても恐ろしあな国であった。いくつか例を挙げて紹介していこう。

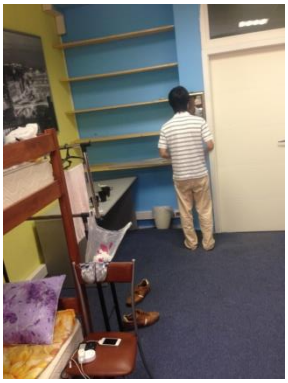
1．ロシアはとてもとても寒い。どれだけかと言えば、日本が糞熱い８月の最後にロシアを訪れると、大体最高気温が 20℃、最低気温に至っては一桁というレベルである。
この気温差についていけなければすなわち風邪をひくことになるのだ。ああ、恐ろしあ。



2．酔っぱらいの厄介度が上昇する。シベリア鉄道内に現れた、ボクサーの酔っぱらいは我らの同乗者をことごとく酔い潰してくれていった。ちなみにウォッカではなくビールだけだったらしい。おお、恐ろしあ。



3．ホテルがなくなる。予約を入れていたホテルのオーナーが失踪したので予約を入れていたはずのホテルから違うホテルへと移されてしまった。ちなみにほとんど英語が通じなかったので若干パニックになりそうだったのは秘密である。はあ、恐ろしあ。



4．チェブラーシカ、ダメ絶対。アルバート通りと呼ばれる有名通りを散策しているとチェブラーシカの着ぐるみに写真を撮ってもらえた。中々にいいこともあるもんだと思っていたら 1000 ルーブル(3000 円)を突然要求された。とりあえず、財布にないもんだから値切って 800 ルーブル(2400 円)にさせてからそこを離れた。ああいう詐欺まがいの連中もいるらしいので注意せねばなるまい。ラスト恐ろしあ。